

支援センター名	やまなし青少年体験活動支援センター		
所在地	〒400-0031 山梨県甲府市丸の内2丁目35-1 山梨県ボランティア・NPOセンター内		
連絡先	Tel	055-224-2941	Fax 055-232-4087
	URL	http://www.yamanashi-nponet.jp/~siencenter	

事業の概要とポイント

(青少年の体験活動ボランティア活動プログラム集の発行)

毎年、体験活動ボランティア活動に取り組みやすい7月～9月までの夏季休業期間に合わせて、小学校の低学年から大学生までの青少年が「参加・体験・学習」することができる「活動の場」及び「体験活動・ボランティア活動のプログラム」を「青少年の体験活動・ボランティア活動プログラム集（以後、プログラム集という）」としてまとめ、県内の全小・中・高等学校・大学・専門学校に配布している。

学校や地域で体験活動・ボランティア活動の情報資料として活用されるほか、子ども達の活動を支援する側である学校、支援センター、市町村ボランティアセンターなどの相談窓口においても、コーディネート資料として活用され、情報の共有化が図られている。

関係した学校・団体等の名称

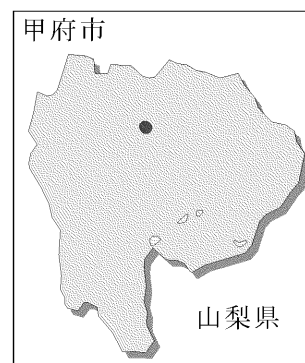
山梨県内の全小・中・高等学校、専門学校、短期大学、大学、福祉施設、社会教育施設、市町村教育委員会、市町村支援センター、市町村社会福祉協議会、教育事務所、ボランティア団体、NPO法人

地域の現況・特色

山梨県は、県土面積 4,465 k² (全国第32位)、人口約89万人、日本列島のほぼ中央に位置している。周囲を急峻な山々に囲まれ、県土の78%を山林が占め、山岳・森林・湖沼・溪谷など豊かな自然景観に富んでいる。

主な産業は農業分野においては、ぶどう・ももなどの落葉果樹の生産が盛んで、農業生産の中核をなしている。また、工業分野では、ジュエリー（宝飾）、ワイン、絹織物、印章などの風土に根ざした地場産業がある。

本県では、1970年代よりボランティア活動が県の重点施策として位置づけられ、人づくり、活動推進基盤の整備などが進められている。また、各市町村内では自治会活動や公民館活動が盛んで、生涯学習分野や生活課題に対する地域住民の主



体的な取り組みが行われている。学校現場においては、福祉教育やボランティア活動が教育課程に積極的に取り入れられ、全小・中学校で地域の特性を活かした活動が取り組まれている。

青少年の体験活動ボランティア活動の推進においては、平成15年より県支援センターほか、市町村支援センターが開設され、総合的な相談・活動支援・コーディネート業務を展開している。

企画から活動までの経緯

- | | | |
|-------|-----|--|
| 平成15年 | 4月 | 山梨県内における青少年の体験活動ボランティア活動に関する現状把握を目的としたアンケート調査を実施。県内の福祉施設・社会教育施設・市町村教育委員会・市町村支援センター、市町村社会福祉協議会など90箇所。 |
| | 5月 | アンケート調査結果を基に、青少年の体験活動ボランティア活動の場・プログラム提供を行える施設等の情報を「青少年の体験活動ボランティア活動プログラム集」にまとめ冊子資料として発行。 |
| | 6月 | 発行したプログラム集を県内の全学校（専門学校、短大、大学を含む）に配布。活動参加者の一斉募集を行う。 |
| | 7月 | 各プログラム実施先（受け入れ先）にて活動希望者を受け入れ。 |
| | 10月 | プログラム終了後、全受け入れ先に青少年の参加状況の把握を目的とした受け入れ状況調査を行い、各受け入れ先での活動状況を把握。受け入れに関する課題・活動内容を集計。活動推進の基礎データとして関係機関と情報を共有。 |
| 平成16年 | 4月 | 前年度に引き続き、さらに活動分野を拡大し、アンケート調査を実施。県内の福祉施設、社会教育施設、市町村教育委員会、市町村支援センター、市町村社会福祉協議会、ボランティアグループ、NPO法人など95箇所。 |
| | 5月 | アンケート調査結果を基に、青少年の体験活動ボランティア活動の場・プログラム提供を行える箇所の情報を「青少年の体験活動ボランティア活動プログラム集」にまとめ冊子資料として発行。 |
| | 6月 | 発行したプログラム集を県内の全学校（専門学校、短大、大学を含む）に配布。活動参加者の一斉募集を行う。 |
| | 7月 | 各プログラム実施先（受け入れ先）にて活動希望者を受け入れ。 |
| | 10月 | プログラム終了後、全受け入れ先に青少年の参加状況の把握を目的とした受け入れ状況調査を行い、各受け入れ先での活動状況を把握。受け入れに関する課題・活動内容を集計。活動推進の基礎データとして関係機関と情報を共有。 |

事例の展開内容（特色など）

単なる情報資料としてではなく、活動参加者が簡易に情報を入手でき、自ら活動希望先を選択し、連絡・活動相談を行うことができる資料づくりを行っている。また、支援センターや市町村社会福祉協議会などの相談窓口でのコーディネートのほか、社会教育施設や福祉施設、NPO法人などにおいても青少年の体験活動・ボランティア活動に関するコーディネートをを行うことができるよう、プログラム集の発行によりコーディネート機能の拡充にもつながっている。

企画・活動する上でのポイント、留意点など

本事業では、青少年の体験活動ボランティア活動に関する情報共有に重点を置き、アンケート調査による意向調査・受け入れ日程の調整・具体的な受け入れに関するコーディネートの協力など、関係機関との連携を図りながら進めている。

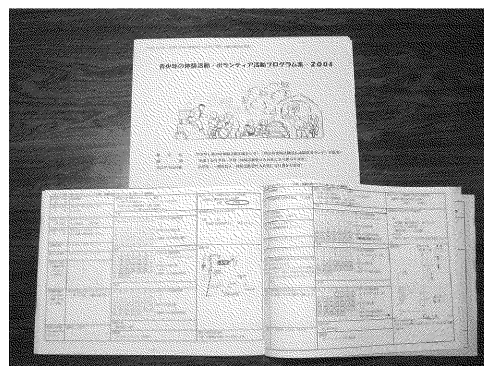
また、青少年が体験活動ボランティア活動を積極的に「参加・体験・学習」が行えるよう、多様なニーズに対応した豊富な活動情報と、気軽に相談や活動参加できるように必要な活動先の受け入れ日程・活動内容・相談担当者などの詳細情報を収集し掲載している。

評 価

平成15年からの2年間に渡り、延べ3,500人がプログラム集を活用し、受け入れ先での活動を行った。本事業の初期目標である「情報の共有」と「活動参加の機会づくり」は達成することができた。しかし、多様化する個別のニーズに対応した活動プログラムメニューの開発や、さらに気軽に相談・連絡調整が行える相談・コーディネートなどの支援機能の拡充が今後も課題である。



やまなし青少年体験活動支援センターが開設されている「山梨県ボランティア・NPOセンター」(外観)



作成・配布している「青少年の体験活動・ボランティア活動プログラム集」(A4版・114頁)

執筆者職・氏名：やまなし青少年体験活動支援センター 事業リーダー 和田豊